

学校新聞特派員

〜姉妹都市 仙台市〜

7月29日から30日までの2日間、中野平中学校3年の芦原混弥さん、湯本健太郎さん、小林愛里沙さんの3人が、「学校新聞特派員」として、姉妹都市の宮城県仙台市を訪問しました。3人が実際に見て、感じた姉妹都市の様子や、仙台市の中学生との交流などをまとめたレポートの中から、一部をご紹介します。

仙台市役所訪問

僕たちが仙台市に着いて、最初に行ったのが仙台市役所でした。市役所の中には、8月6日〜8日に行われる、七夕祭りの飾り付けがありまし



▲副市長を表敬訪問

た。市役所に行った僕たちは、副市長さんとお話をしました。副市長さんは僕たちを温かく迎えてくれて、話しやすかったです。お土産もいただいて、僕は中に入っていたので良かったです。写真も撮っていただき、ありがとうございました。

次に、教育長さんとお話しをしました。教育長さんも温かく迎えてくれて、とても話しやすかったです。話の場には、これから交流する南小泉中学校の元校長先生がいて、交流のとき、質問してもらいたいという質問のネタをいただき、本当に助かりました。

南小泉中学校と交流



▲交流会で市・学校紹介

南小泉中学校との交流会では、お互いの学校紹介、ずんだ団子作りの体験をしました。学校紹介では、お互いの住んでいる地域にも触れながら紹介しました。その後の意見交換では、各学校から活発な意見が飛び交い、理解を深め合うことができました。

私は、南小泉中学校が行う非行防止を呼びかける「アルカス運動」、健全育成を呼びかける「健全育成パレード」という活動が心に残りました。いつか中野平中学校でもこんな活動ができるよう、考えていきたいと思いました。ずんだ団子作りでは、団子のあんの部分となるずんだを

一から作りました。皆さんが丁寧に教えてくださったこともあり、初めての体験でしたが、とてもおいしいうずんだを作ることができました。お互いの学校の良いところを吸収したり、仙台の名物を味わったり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

音楽姉妹都市交流

短い間でしたが、音楽姉妹都市である仙台市について多くの文化に触れたり、また中野市のことについても、南小泉中学校の皆さんに少しでも知ってもらうことができたと思うので、本当に充実した2日間を過ごさせていただくことができました。

僕自身は、空手の全国大会が仙台市で開催されたというのもあり、3回ほど仙台市を訪れたことがありました。ただその時は、中野市と姉妹都市であることを知らなかったもので、それほど仙台市について興味や関心を持っていませんでした。2日間を終えて、今こうし



音楽姉妹都市交流会

て中野市と仙台市を比べると遠く離れているけれど、共通している点がいくつもあるんだなあと感じています。最後に、僕が仙台市に関心を持っていたのは、この機会がたまたま僕たちに回ってきたことと、中野市の協力がなかったら、感じられていなかったことです。これからも中野市と仙台市の関係がより深まっていけばいいなあと思います。

2日間で学んだことをより多くの人々に伝えていければいいです。

被爆地派遣

〜広島市〜

8月4日から6日までの3日間、豊田中学校3年の須田淳暉さん、富井 遼さん、中村華子さん、森山佳菜さんの4人が、「平和使節」として、被爆地の広島県広島市を訪問しました。4人が戦争のむなしさや悲惨さを知るとともに、広島市の中学生との交流などをまとめたレポートの中から、一部をご紹介します。

平和使節の体験を通して

平和宣言では、広島市長さんが「こがえないびせえこたあ（こんなに恐ろしいこと（は）ほかの誰にもあっちゃあいけん」と、被爆者の思いを広島弁で代弁し、「核兵器のない世界を1日も早く実現することこそ、私たち人類に課せられ、死力を尽くして遂行



▲平和祈念式典参加

しなくてはならない責務」と訴えていました。僕は、この体験を通して、今まであまり知らなかった戦争や平和のことや少しですが、分かったような気がしました。まだ世界には、たくさん核があります。しかし、いつかそのたくさん核が、全てなくなる日が来ればいいと思います。そして、世界中に本当の平和が訪れることを願っています。そのために僕もこの3日間

平和交流会

の体験で学んだことを、これからの生活の中で生かしていきたいです。続いて、豊田中学校・翠町中学校「平和アピール」がありました。今から、65年前に



▲翠町中学校との交流会

あった原子爆弾の事、戦争の事、平和の事を学び深く考え、具体的な行動をしていくという内容でした。連帯旗交換があり、僕たちが作って持った行った平和を願う旗と翠町中のみなさんが作ってくださった旗を交換しました。そして、みんなで「青い空」という歌を合唱しました。

平和を願う気持ちで歌えてよかったです。翠町中学校は、広島に落とされた原子爆弾とのかかわりがとても深く、平和について全校で考えていく中学校でした。翠町中学校から、いろいろな事が学べて、平和・戦争を真剣に考える良い機会になりました。

被爆体験者の講話

被爆体験者の寺前さんのお



▲被爆体験のお話を聞きました

話しをお聞きして、私はいろんな気持ちになりました。寺前さんは、私たちと同じ15歳の時に被爆しました。寺前さんは原爆によって顔にけがをしました。両親が気を使っている自分の顔を寺前さんは、見せてもらえませんでした。あんな時、弟たちが「お姉ちゃんお化けみたいな顔になった」と言ったそうです。それを聞いてとてもショックだったそうです。私は、どれくらいけがが、ひどかったかは分かりませんが、きつと痛かったり辛かったんだなと思いました。そんな事を考えると胸が痛くなります。私だったら、苦しくていやで死んでしまおうと思います。寺前さんも「死にたい」と思う時が、あったそうです。今は生きていて良かったと感じているそうです。

広島平和記念資料館



▲原爆ドームにて

私は、平和記念資料館を見るまで、「戦争って怖いなあ」ぐらいにしか思っていた。戦争というものは、もっと怖くて恐ろしくて多くの人々を苦しめるものだと思え、原子爆弾は、一発で何万人・何十万人もの人々を傷つけるひどいものだということ、よく分かりました。原爆ドームは、被爆当時のまま保存されており、とても大きな建物でした。もし日本に原子爆弾が落とされなかったら、何十万人もの人が死んでしまったり苦しまなかったでしょう。もうそんなことがあってはいけません。絶対にやっつけたい。もう二度と核兵器を使わないうような世界・地球になっほしいです。